

別海町議会活性化のあゆみ 質問力を「政策議会」の資源に

二〇一四年六月、議員定数等調査特別委員会から議会活性化策が報告された。報告内容は議員定数を一八名から一六名に削減、議員報酬の増額、広報・広聴常任委員会化、議会モニターの導入、正副議長選挙の所信表明などである。

二〇一五年の町議会議員選挙は、定数に対して一名オーバーで選挙が行われた。改選後、議会活性化の議論は議会運営委員会を中心に行われた。全員協議会において活性化の進捗状況をわかりやすくすべきだという意見があり、二〇一六年五月に第一期別海町議会活性化計画を策定した。この計画は、別海町自治基本条例の基本理念である「町民参加」と「情報共有」を議会運営の基本とし、「わかりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」の実現を基本理念とした。

計画策定後の任期である三年間の計画期間を通じて、「開かれた議会」を目指して情報発信や情報共有が強化され、「わかりやすい議会」を目指して導入した「議会モニター制度」「意見交換会制度」による広聴制度が充実したが、課題も浮き彫りとなった。二〇一一年から実施している議会報告会は、参加人数の減少していく中、個別議員の誹謗中傷などが行われ、荒れたものとなっていた。その対策を広報・広聴常任委員会で協議し、二〇

一七年から分会方式を導入し改善が見られた。

二〇一八年度は、計画の最終年であるため第一期計画の点検・評価を行い、第二期計画の策定に向けて議論を重ねた。計画期間中の議会活動、議員活動について議員の自己評価に基づく内部評価と、議会モニターによる外部評価を行い、点検・評価報告書としてまとめた。全議員が円卓で討論する全員協議会協議会を開催し、点検・評価と併せて、改選後の議会活性化計画の草案作成、議会モニター制度の改善や議会基本条例に係る論議を重ねたことは、「議会活性化」の土壌づくりとして効果的であった。

二〇一九年の議会選挙も前回に続き定数に対して一名オーバーで選挙が行われた。根室管内では唯一選挙戦となったためか、選挙後には、選挙があったので町が活気づくという声が聞かれた。二〇一九年六月、改選前に作成していた計画草案を基に新議員を交え討議の後、別海町第二期活性化計画を策定。この計画では、「別海町議会基本条例」の制定と、委員会活動のPDCAサイクル化を推進し政策提言・政策論議につなげるため「委員会の調査力及び政策力の向上」の二つを重点計画と掲げ、「わかりやすい議会、開かれた議会、行動する議会、結果を出す議会」の四つを基本方針と

し、議会活動及び議員活動のPDCAサイクルとマッチングさせ、基本計画と関連つけた。

選挙後の初議会を経て、常任委員会の構成が決定し、公共施設や各種計画の更新予定、本年度の事業計画などを調査し、議員任期の四年間にわたる調査計画書を作成した。改選前からの追跡調査、各委員会での調査計画に基づいた調査、行政視察により、当町の政策課題が浮き彫りとなり、課題解決が必要な状況となっている。

そして、以前から課題であった一般質問の研修にも取り組んでいる。一般質問をする議員が限られていることや、質問の内容、構築に関して議会モニターから指摘が続いたこと、また、一般質問を政策論議に活用するためである。

本年八月に実現した一般質問研修は、当議会が目指すべき姿を具現化するものとなった。質問力を「政策議会」の資源にするというものである。

全国的な議会改革「議会活性化の機運が高まる中、「第一期別海町議会活性化計画」の三年間で、その後今後の議会運営、議会活性化を論じる新たな議員間討議の環境が整い、議会運営や議会活性化について町民が提言し、監視する仕組みが形作られた。今後、「第二期別海町議会活性化計画」では、議員の争点提起を議会の政策資源に転換する一般質問の追跡、広聴制度の拡充による「PDCAサイクルの確立」、正副議長報告・委員長問討議・政策討論会等の「議員問討議の更なる充実」により、重点計画である「委員会の調査力及び政策力の向上」を押し進め、その実践活動をベースに、もう一方の重点計画である「議会基本条例の制定」を目指したい。

へにしはら ひろし・別海町議会議長